

県大 jiman

滋賀県立大学広報誌
第5号 005
July . 2009



特集

県大×つくる インタビュー「つくる」とは? 学生がつくる県大 つくるを支える設備と体制	2
学生企画 県大生 学びのファッション&アイテムチェック こんなスタイルは県大でしか見られない?	6
県大Report	
Labo Report 県大jimanな研究室。今回は国際教育センター 寄本研究室です。	8
Class Report あの授業はどんな授業?今回は工学部電子システム工学セミナーです。	8
After School Report クラブ・サークルの紹介。今回は武道系4部を紹介します。	9
県大Book Review 今回は県大の先生が執筆した本を紹介します。	9
Campus Report 鴨のヒナが誕生しました!	9
トピックス&インフォメーション 県大イベントカレンダー	10

「県大 jiman」について

琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに応援する気持ちをロゴにデザインしました。

滋賀県立大学

The University of Shiga Prefecture

特集

県大 × つくる

県大のキャンパス内外において、「つくる」をキーワードに学生と教員がさまざまな活動を展開しています。今回の特集ではそうした活動と「つくる」を支える設備や仕組みをご紹介します。

ひとと自然のバランスのいい状態をつくる

40年ほど前までは身の回りに、若い林や草原がいっぱいありました。人が木を切って燃料にしたり、茅で屋根をふいたり、落ち葉で肥料を作ったりと周りの自然を活用していたからです。しかし、高度経済成長を経て生活が大きく変わり、身近な自然の中身が変わりました。小さな草や虫は減り、農地は耕作放棄地が増えるとともに、獣に作物を食べられる被害が起きています。

獣害問題への対応として、「網や柵で作物を守る」「増えすぎた場合、獣の数を減らす」「環境を変える（林を間伐したり緩衝帯を作る）」の3つの取り組みが重要です。

人は自然に守られて生きていくのに自然のバランスを壊しています。昔の復活ではなく、身近な自然に手を入れ活用することで、生物多様性を高くし、ひとと自然のバランスのいい状態をつくる必要があります。

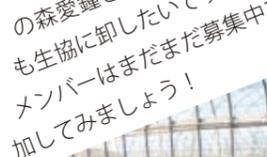
—— 学生へ一言

エコキャンパスプロジェクトの顧問もしていますが、学生のみならずには、①自然を見て自然の秘密を読み取る、見る目を身につける。②地域の人々、学生など他の人から学ぶ。③自分ができるところから何か行動する。この3つを試みてほしいと思っています。

教員が教えられるのは調べ方、文章の書き方、発表の仕方などで、一番大事なことは教えられません。複雑な自然と社会を、自分で手足を動かして、いろんな人と関わりながら理解していかなくてはならないと思います。



環境科学部
環境生態学
野間直彦 講師



もくれん ～ものづくりの拠点をつくる～



大学の敷地内に、江戸時代建立の旧水口藩主の蔵を移築・再生した木工室「もくれん」があります。建物の中には、木工に必要な機械や道具がそろえられており、エコキャンパスプロジェクト木楽部会のメンバーのほか、木匠塾など木を素材にものづくりに取り組むグループが利用しています。

犬 上郡豊郷町の使われなくなったビニールハウスを修理し、地域の老若に農業を教わりながら野菜を育てています。野菜づくりを通して交流を図るだけでなく、野菜販売で得た利益をお年寄りの収入にすることを活動の目的としています。

とよさらだプロジェクト ～地域の野菜をつくる～



犬 上郡豊郷町の使われなくなったビニールハウスを修理し、地域の老若に農業を教わりながら野菜を育てています。野菜づくりを通して交流を図るだけでなく、野菜販売で得た利益をお年寄りの収入にすることを活動の目的としています。



環境科学部
環境生態学
野間直彦 講師

INTERVIEW 1

人間を意識 してものをつくる

家電製品や自動車など、私たちの生活は多くの工業製品に支えられています。工学部の卒業生の多くは、それらの「ものづくり」の現場で活躍しています。

機械システム工学科では、大学でのもので「ものづくり」教育の第一歩として、プリンタや目覚まし時計など身近な機械の分解・組立を行っています。これは、「なぜ動くのか」「なにで出来ているか」など「ものづくり」の基礎となる部分を理解し、関心を高めるきっかけとなります。さらに、機械の構想から設計、製図、製作までを通して体験する実験や演習にも力を入れています。自らの手で学び、一つのプロジェクトを最後までやり遂げること、ものづくりの楽しさを実感することができます。

—— 学生へ一言

工学では、人間を中心とした設計を意識することが重要です。機械をつくるには、効率やパワーだけではなく、操作する人間のことも考えなくてはなりません。人間生活に役立つものをつくること、という工学の目的を大切に、人間を意識してものをつくるという研究・教育を目指しています。



工学部機械システム工学科
栗田裕 教授

工学部附属実習工場 ～つくるを支える～



さまざまな種類の工作機械を備えた施設で、工学部の実習や研究用実験装置の製作などを行っています。学生自ら機械を利用できるほか、3名の専門スタッフが常駐しており、高度な加工や技術相談にも対応してくれます。

リサイクルプランター ～リサイクル環境をつくる～



プラスチックを利用してリサイクルプランターづくりに取り組んでいる「廃物バスターズ」。近江楽座のプロジェクトにも採択され、年々加工や技術相談にも対応してくれます。



INTERVIEW 2

工学部電子システム工学科棟 ～学びの場をつくる～

平成21年4月に工学部電子システム工学科棟が完成しました。この棟は、平成18年に環境科学部環境建築デザイン学科の松岡拓公雄教授を中心として学内のプロジェクトチームが発足し、教員、学生が協力して基本設計を行いました。着工してからは、建築事務所や施工者とともに、内装や設備などについてアイデアを出しあいながら工事を進めてきました。



プロジェクトに参加した環境科学研究科の田邊智美さんは、「実際の建設現場に最初から完成まで参加できたことは、素晴らしい体験でした。県大の魅力は、いろいろなものづくりの体験ができることにあると思います。」

滋賀県産の焼き杉で覆われた新学科棟は環境に配慮した建物として工学部の新しい顔となっています。

現代社会は経済のグローバル化や成果主義の広がりなどから、企業で働く人の心とからだの健康が脅かされています。健康面での個人間の格差も大きくなっており、企業や地域社会のサポートが不可欠になってきています。

健康なからだをつくる



「2007年問題」の研究に早くから取り組んできましたが、滋賀は、地域ぐるみのつきあいを大切にする風土があり、働く人や退職を迎えた人を受け入れる懐の深さがあります。心とからだの健康には人とのふれあいが欠かせませんが、健康づくりの受け皿としてとも可能性のある地域だと思っています。



人間看護学部 人間看護学科 西田厚子准教授

また、ストレスの多い社会において、困難に立ち向かう力がなくなってきたように思います。そういう意味からも学生時代に人との関わりをしっかりと訓練しておく必要があるのではないのでしょうか。

学生自治会 ~学生環境を自らつくる~

県大では、昨年、学生自治会が発足しました。これまで主に勉強環境の充実を図ることを目的に活動してきました。受験宿泊のお手伝いや、新入生相談会などのほか、月1回の評議員の会議、週1回の執行委員の会議を行っています。



学生支援センター ~学生のさまざまな生活づくりをサポート~

成20年10月に事務局カウンター横に学生支援室がオープンしました。学生のみなさんのさまざまな相談に応じることができるよう、開放的な雰囲気になっており、教職員がいつでも気軽に相談に応じてくれます。



湖風祭 ~ここにしかない祭りをつくる~

湖風祭は学生だけでなく地域の人など誰もが楽しめるとともに、「学生・地域・環境」の3つをキーワードにした独自の高い学園祭を目指しています。



近江楽座 ~学生の活動の場をつくる~



県大では、学生が地域に入り、地域活性化をテーマにさまざまな活動に取り組むことを応援するシステムとして「近江楽座」があります。平成16年にスタートして以来、今年で6年目ですが、これまでに100件以上(継続プロジェクトを含む)のプロジェクトが地域の方々と一緒に活動してきました。

県大三二博物館 ~ユニークな展示をつくる~

県大では、博物館などの学芸員の資格を取得するた大学と多賀町立博物館が共同して、その展示を行う活動を10年以上続けてきています。



人間文化学部 生活デザイン学科 面矢慎介教授

テラス ~学生の新しい憩いの場をつくる~

平成19年9月に教員、学生と大学生協が中心となり、食堂に面した中庭に木製テラスを制作するプロジェクトが始まり、平成21年3月に完成しました。



ものづくり方とつくり方方を理解する

身の回りのごくありふれたものをより良くしていくのが生活デザインであり、生活デザイン学科では道具・服飾・住居という暮らしの三要素を学ぶことができます。

道員は社会の要求で生まれるものであり、今も昔も生活を支えるものです。生活者が自ら生活をつくりだすのが理想ですが、常に新製品が溢れる現在では、つくるというよりは既製品を選んで組み合わせることで個々の生活がつけられています。

近江楽座の活動やファッションショーでは、授業だけでは学べないコミュニケーション能力やものごとを企画する力が得られます。与えられたことをこなすだけでなく、自分で仕事をつくれるようになってほしいと思います。

県大生のファッション&アイテムチェック

大学は、高校までの教室中心の授業と違って、実験や実習のほか、フィールドへ出かけての調査などさまざまな授業形態があり、それぞれに応じて特徴的なファッションやアイテムが見られます。そうした県大生の学びのスタイルを紹介します。

問題のある土でも育つ、より強いイネの品種育成の研究をしています。この田圃は研究の一環...というより、半分は先生の趣味かもしれないです(笑)毎年、研究室の学生と八坂地区の方で田植えをしています。

週に3回の調理実習用に、白衣の他に靴や帽子も持っています。帽子姿は恥ずかしいのでごめんなさい。食品交換表はカロリー換算の時に使います。

人間文化学部の授業の一環で、モンゴル人のホトランガさんに来ていただき、民族衣装のデールを着て、馬頭琴を演奏し歌を歌ってもらいました。ホトランガさんは非常に声量があり、キャンパスに歌声が響き渡って圧巻でした。

人間看護学部生は必須アイテムとして聴診器と血圧計を持っています。聴診器を用いた心音や脈拍、肺音などの聞き方を学びます。

行動論演習では「田中ビネー知能検査」という道具を使用します。子どもを観察し、子どもの成長の比較や、どのように発達しているのかなどを学びます。

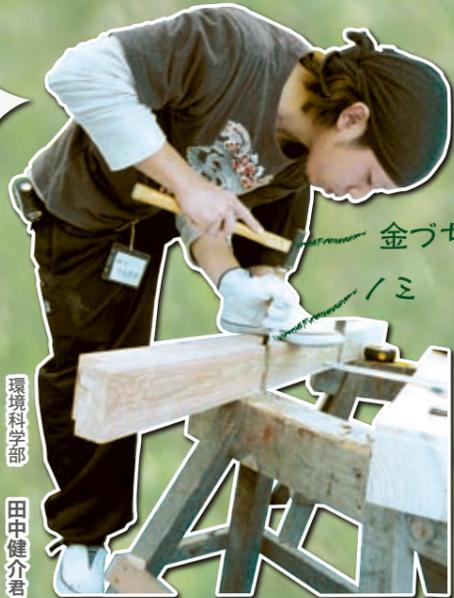
木匠塾では、制作活動を通して木造建築の技術を学ぶとともに、木の生産や流通、森林の環境について学んでいます。ゼットソー(のこぎり)・ノミ・丸ノコなどを使って、遊具や休憩所を作っています。

山へ樹木の調査に行くときはつなぎを着ていきます。雨のときはカッパを着ますが、環境生態学科の学生は先生から「3,000円以上の丈夫なカッパ」を持ちなさいと言われていました。

色々な工作機械を使って金属を削ったり、穴を開けたりしています。鉄の切り屑や油が飛んでくるので作業着+保護メガネ姿です。

グローブボックスという密閉した箱の中で有機薄膜太陽電池を制作しています。空気中の酸素などが有機層を傷つけることを防ぐため、手袋のついた穴に手を入れて作業することで酸素などの侵入を防ぎます。

実習調査船「はっさか」に乗って琵琶湖へ出て、水質や水の循環、湖底の泥を採取するなどの調査を行っています。ライフジャケットは調査船での実習のときに着用します。



After School Report

滋賀県立大学には合気道部、弓道部、剣道部、柔道部の4つの武道系クラブがあります。今回はそれぞれの「道」を追求しているこれらのクラブを紹介します。

合気道部

部員はみんな大学から始めた未経験者ばかりです。ほぼ毎週県内の町道場でも稽古を行い、そこでお年寄りから子どもまで幅広い年代と交流できるのも合気道の魅力だそうです。

創部15周年式典と合同稽古を10月11日(日)に県立大学で開催します。町道場の方などを招いて150名ほどが参加する予定です。

活動日:月・水・金 18:30~20:00
活動場所:柔剣道場
URL:<http://aikisou.hp.infoseek.co.jp/>



弓道部

大学内に弓道場がないため、彦根城近くの市営弓道場で練習しています。大学から遠いため、平日はそれぞれが空いている時間を見つけての道場通いで大変ですが、彦根市弓道連盟の方から指導を受けられたり良いこともあるそうです。

28m先の的に当たるか外れるか…集中力の向上が魅力だそうです。

活動日:月~金 14:00~18:00 土 9:00~12:00
活動場所:彦根市営弓道場
URL:<http://www.geocities.jp/shikedaikyudo/index.html>



剣道部

「相手との駆け引きの中で一本を取ったときの喜び」が剣道の魅力と主将の大江山さん。

昨年の成績は京滋学生剣道大会では団体男子が3回戦進出、彦根市民大会では男女ともに団体が3位になっています。

部員は26名で男女比は半々くらい。新入部員募集中で未経験者でも一から教えますとのこと。

活動日:火・水・木 18:30~20:00
活動場所:柔剣道場
URL:http://www.geocities.jp/sigakendai_kendoubu/



柔道部

小・中・高・大と柔道をしてこられた須戸幹先生(環境科学部)の指導のもと、部員がそれぞれ目標を立て稽古に励んでいます。

現在部員は男子のみ6名。男女問わずやる気のある新入部員を募集中。「運動不足解消に最適」、「のびのびと楽しくやっています」そんな言葉に魅力を感じた方は是非柔道部へ。

活動日:火 18:30~19:30
活動場所:柔剣道場



Campus Report

カモのヒナ誕生!

もう見た人も多いと思いますが、カモのヒナが生まれました。

人間文化学部の濱崎先生が、ヒナがいつの間にか生まれていると教えてくださいました。さっそく見に行ってみると、図書情報センター1階の入口近くで、4羽のヒナが親ガモと一緒に優雅に泳いでいました(写真左)。歩く姿もかわいいですね(写真右)。



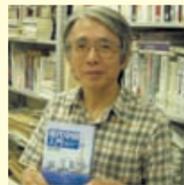
冬はエサがなくなるからパンの耳をあげていたという濱崎先生。「とんびやへびに食べられてしまわないか」と心配そうに話しておられました。ヒナたちが元気に大きくなってくれるように、これからも見守っていきましょう!

Kendai Book Review

『現代中国入門—共産党と社会主義はどう変わったか』

荒井利明 著

人間文化学部地域文化学科教授
日中出版(2009)



荒井先生は、2006年4月に本学に就任し、中国についての講義をしていくうちに、「中国についての入門書」が必要だと感じましたが、自分で書いた本が一番良いと思い、この本を執筆されました。

この本には、約60年の中国の変遷が書かれています。今日、中国は様々な面でめまぐるしく変化しており、日本と中国の関係も変わってきています。そのためにこれからの時代を生きていく若い人たち、学生たちにぜひ読んで、中国が私たち日本人にとって大切であることを知って欲しいとのこと。

荒井先生は、以前新聞記者をされていました。この本にはその経験が生かされていて、わかりやすい文章で書かれているため、とても読みやすいです。

Labo Report

国際教育センター 健康・体力科学系列 (寄本明研究室)

健康づくりを地域で実践

「熱中症」、「メタボリックシンドローム」、「生活習慣病」—近年、ニュースや新聞等で目にする機会が増えている言葉ですが、健康・体力科学系列の研究室ではこのキーワードに関する研究に取り組んでいます。

寄本先生(写真左)は、運動時の体温調節機能を明らかにし、適切な熱中症予防措置についての研究と、生活習慣病やメタボリックシンドローム予防について研究をしています。今年4月に着任した南先生は、運動不足や栄養の偏りが血管にどう影響するかを研究しており、今後はそれぞれの研究を融合し、新たな運動処方や適切な予防法の提案をしていきたいと考えています。

寄本先生の研究は、地域で実践的に行われていることが特徴です。熱中症予防に関しては、湖南地域の高校生を対象に、熱中症の発生実態や生徒の認知度を調査し、科学的なデータを基に予防指導をしています。また、地域の人々の健康づくりのための新たな運動プログラムの提案ということで、スキーのストックのようなものを企業と連携し開発。それを使った「ポールウォーキング」を考案し、実際にウォーキング教室が開かれています。自治体とも協力し、生活習慣病・メタボ予防のための教室や講座も実施。研究で関わっていた地域の人たちと健康づくりサークルを立ち上げた卒業生もおり、地域の人々の健康維持・促進に大きく貢献しています。

「フィールドでデータを得てそれをすぐ次に活かせる分野。実践的な研究が、地域の人たちや学生の健康づくりに反映されることが必要」と寄本先生。人々の健康に対する意識が高まっている中、予防医学という観点からも注目の研究です。



寄本明研究室DATA

教授:寄本 明
E-mail:yorimoto@ice.usp.ac.jp
研究室:A1-109
今回のレポートには、今後、連携して研究に取り組んでいく予定の国際教育センターの健康・体力科学系列の南和広准教授にもお話を伺いました。



企業と連携し開発したKD PoleWalker(ポールウォーカー)

Class Report

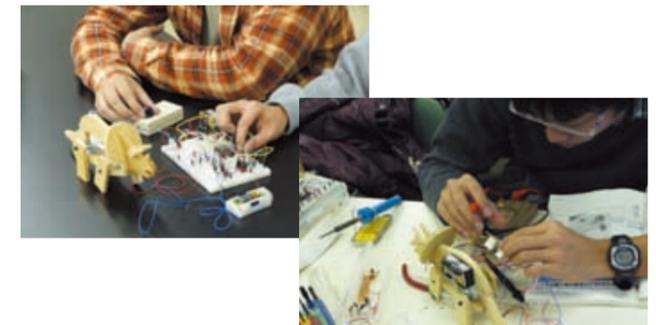
電子工作を通じて体験的に理解する

電子システム工学セミナー

工学部電子システム工学科基礎科目
担当教員:奥村進教授、岸根桂路准教授

電子システム工学セミナーは、電子システム工学科、1回生前期に行われる実習授業です。選択科目ですが、学科生全員が履修しています。マイコンシステムなどの電子工作を通じて電気・電子・情報に関する基礎を理解することを目指します。

メインテーマは電子回路の製作です。特にマイコンシステムについて学びます。マイコンシステムとはパソコンを小さくしたようなもので、様々な指示をするものです。ところで、皆さんはエアコンや炊飯器などの家電製品の中を見たことがありますか。なかなかそのような経験はないと思います。それらの中には必ずマイコンシステムがあり、なければ動きません。そんな重要な役割をするものです。授業では、トリケラトプスのお



もちゃを動かすマイコンシステムを学生一人一人が作ります。そして、その指示を作るためにパソコンを用いて、プログラミングを行います。プログラミングを行うノートパソコンが1人1台与えられるため、参加する学生が全員ものづくりを行うことができる大変魅力的な授業になっています。

サブテーマにもおもしろいものがたくさんあります。ライントレースカーを走らせるプログラミングを考案して実際に動かし、プログラミングの勉強を深めていきます。他にも、発光ダイオード(LED)を用いた簡単な電子回路の製作も行います。LEDは消費電力が少なく、いま注目の半導体素子で、身近なところでは信号機に使われています。他にも電流を増幅するトランジスタ、電気を蓄えるコンデンサーなど多くのことについて実習を通じて学び、とても充実した内容になっています。

Information

- ### 受賞・表彰
- ・杉本悦郎名誉教授
平成21年春の叙勲瑞玉中級章
 - ・工学部 坂本真一准教授
平成21年度科学技術分野の
文部科学大臣表彰若手科学者賞
 - ・大学院工学研究科博士前期課程2回生 渡邊聡さん
(社)砥粒加工学会誌学術講演会
ABTEC2008
優秀講演論文賞
 - ・大学院工学研究科博士前期課程1回生 北野浩一さん
優秀講演論文賞
 - ・日本機械学会若手優秀講演フェロー賞
人間文化学部4回生 三橋 恵さん
WORLD SPACE CREATORS
AWARDS 2009
学生部門大賞
 - ・人間文化学部4回生 千田亜沙子さん
WORLD SPACE CREATORS
AWARDS 2009
学生部門優秀賞
 - ・大学院環境科学研究所
博士後期課程3回生 川井 操さん
博士前期課程2回生 石野 啓太さん
博士前期課程2回生 美和絵里奈さん
他2名
 - ・まちの活性化・都市デザイン競技
奨励賞
 - ・人間文化学部 土屋敦夫教授
4回生 山下恵里華さん
4回生 鬼海めぐみさん
彦根市長特別賞
 - ・吹奏楽部 サクソフォン4重奏
関西アンサンブルコンテスト銀賞
滋賀県アンサンブルコンテスト金賞

- ### 着任
- 平成21年4月1日付
- ### 人事異動
- 大田 啓一
理事・副学長
(教育担当)
 - 菊池 潮美
理事・副学長
(研究・評価担当)
 - 仁連 孝昭
理事・副学長
(地域貢献・渉外担当)
 - 木村 真之
工学部 助教
(電子システム工学科)
 - 亀井 若菜
人間文化学部 准教授
(地域文化学科)
 - 佐野 光枝
人間文化学部 助教
(生活応用系学科)
 - 丸山 真央
人間文化学部 助教
(人間関係学科)
 - 木村 裕
人間文化学部 助教
(人間関係学科)
 - 奥津 文子
人間看護学部 教授
(人間看護学科)

- ### 所属替え
- 事務局長 堀部 栄次
 - 総務グループ 坪田 潔和
 - 財務グループ 狭武 香一
 - 経営戦略グループ 伊香由美子
 - 学生・就職支援グループ 田辺 善美
 - 教務グループ 前川 寛行
 - 図書情報グループ 田中 繁芳
 - 主任主事 林 周
 - 主事 玉井 大輔
 - 主幹 福田 明人
 - 主査 有馬 敦子
(財務グループより)
 - 環境共生システム研究センター 特定教授 小沢 晴司
 - 国際教育センター 准教授 南 和広
 - 人間看護学部 助手 大辻 裕子
(人間看護学科)
 - 人間看護学部 助教 家根 明子
(人間看護学科)

- ### 退職
- 財務グループ 主査 青木 弥生
(学生・就職支援グループより)
 - 教務グループ 主任主事 高田 俊裕
(経営戦略グループより)
 - 環境科学部環境政策・計画学科 教授 石野 耕也
 - 環境科学部環境生態学科 教授 國松 孝男
 - 環境科学部生物資源管理学科 教授 川地 武
 - 工学部材料科学科 准教授 小島 彬
 - 工学部材料科学科 准教授 清水 慶昭
 - 人間文化学部生活栄養学科 教授 早川 史子
 - 人間文化学部人間関係学科 教授 八木 英二
 - 人間看護学部人間看護学科 教授 竹村 節子
 - 人間看護学部人間看護学科 教授 豊田久美子
 - 人間看護学部人間看護学科 教授 長江美代子
 - 人間看護学部人間看護学科 講師 甘佐 京子
 - 人間看護学部人間看護学科 講師 滝澤 寛子
 - 人間看護学部人間看護学科 助手 玉水 里美
 - 国際教育センター 准教授 岡本 進

Topics & Information

TOPICS 01 新理事 (副学長) 紹介



大田 啓一
(教育担当)

今年度から3人の新たな理事(副学長)が就任しました。

学生のとときはワンダーフォーゲル部や剣道部、英会話サークルに所属されていたそうです。

「これからの抱負」
滋賀という土地では、うっかりすると視野が狭くなってしまう。広く世界を見渡すために、世界と付き合える潜在能力を身につける必要がある。学生には、世界に通じる学力・思考力と語学力を鍛え、異文化を理解し、国際交流できる機会を多く提供していきたい。



菊池 潮美
(研究・評価担当)

大学時代には、教養課程のときに聞いた仏像美術の先生の話がき



仁連 孝昭
(地域貢献・渉外担当)

「学生へのメッセージ」
学生の頃の経済学は、理論先行で現場が軽視されているのが好きになれず、自分でテーマを決めて学生同士で勉強会をされていたそうです。実際の現場で学問の枠にとられず学際的に議論できたことが印象に残っているそうです。

「学生へのメッセージ」
自分の頭で考えてほしい。ただ知識を得るだけでなく、見たこと感じたことから発想して、知識の活かし方を考えてほしい。

TOPICS 02 留学生 支援会を 設立



▲新入生歓迎会の様子

平成21年3月、留学生交流および国際化をより一層推進し、本学の留学生を支援することを目的として「滋賀県立大学留学生支援会」を設立しました。留学生の賃貸住宅契約における保証人支援や緊急時の経済的援助など、大学の枠では対応しきれない部分をケアするための活動をしています。

本年度は中国、モンゴル、韓国から18名の交換留学生を迎え、5月には交流会を兼ねた新入生歓迎会を開催しました。

支援会は教職員を中心とした会員による会費と寄付で成り立っています。

TOPICS 03 優秀職員 表彰式



▲優秀職員表彰式の様子

表彰者は次の方々です。

- 柴田 いづみ 教授
環境科学部 環境建築デザイン学科
- 松岡 拓公雄 教授
環境科学部 環境建築デザイン学科
- 山根 浩一 教授
工学部 機械システム工学科
- 京楽 真帆子 教授
人間文化学部 地域文化学科
- 寄本 明 教授
国際教育センター

本学では、特に顕著な業績のあった職員に対する優秀職員表彰制度を設けています。各学部等から推薦を受け学内で審議した結果、5名の教員を優秀職員として表彰することを決定し、6月5日に表彰式を行いました。



8月	上旬		インターンシップ(～9月下旬)
	7	金	夏季休業開始
	8～28	土～金	レイクスペリオル州立大学(LSSU)夏期プログラム
	8・9	土・日	オープンキャンパス2009
	10～12	月～水	集中講義期間
	19	水	第2回琵琶湖塾 講師:中田宏氏(横浜市長)
	22・23	土・日	荒神山ロックフェスティバル09
	27	木	大学院入学試験(人間文化科学研究科生活文化学専攻博士前期課程)
	27・28	木・金	大学院入学試験(工学研究科博士前期課程)
	28	金	大学院入学試験(工学研究科博士後期課程)
	28	金	3年次編入学試験(工学部)

9月	3	木	3年次編入学試験(環境科学部)
	5	土	3年次編入学試験(人間看護学部)
	7・8	月・火	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士前期課程)
	9	水	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士後期課程)
	15～29	火～火	集中講義期間
	16	水	第3回琵琶湖塾 講師:鎌田寅氏(医師・作家)
	28・29	月・火	大学院入学試験(環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程)
	30	水	夏季休業終了

10月	1	木	後期授業開始、後期公開講義開始
	14	水	第5回就職ガイダンス(就職活動直前対策セミナー)
	15・16	木・金	大学院入学試験(人間文化科学研究科地域文化学専攻博士前期課程)
	17	土	第2回就職対策講座(一般常識試験対策セミナー 模擬テスト)
	21	水	第4回琵琶湖塾(公開琵琶湖塾) 講師:井村雅代氏(井村シンククラブ代表)
	21	水	第6回就職ガイダンス(留学生就職セミナー)
	31	土	第3回就職対策講座(SPI試験対策セミナー 模擬テスト)

11月	4	水	大学院入学試験(人間看護学研究科修士課程)
	5	木	「湖風祭」前日準備(全学休講)
	6～8	金～日	大学祭「湖風祭」
	7・8	土・日	ミニオープンキャンパス
	9	月	「湖風祭」後片付け(全学休講)
	18	水	第7回就職ガイダンス(就職活動体験発表)
	21	土	第4回就職対策講座(エントリーシート・履歴書対策セミナー 模擬テスト)
	25	水	第5回琵琶湖塾(公開琵琶湖塾) 講師:陰山英男氏(立命館大学教育開発推進機構教授)
	25	水	第8回就職ガイダンス(キャリアデザインセミナー(1))
	26	木	3年次編入学試験(人間文化学部)
	29	日	特別選抜試験

12月	2	水	第5回就職対策講座(グループディスカッションセミナー)
	9	水	第6回琵琶湖塾 講師:岸井成格氏(毎日新聞特別編集委員)
	9	水	第9回就職ガイダンス(業界研究・企業研究セミナー)
	16	水	第10回就職ガイダンス(キャリアデザインセミナー(2))
	19	土	第6回就職対策講座(面接対策セミナー ビジネスマナーと面接突破方法)
	23	水	冬期休業開始
	24・25	木・金	補講期間

1月	4	月	冬期休業終了
	5～8	火～金	集中講義期間
	12～21	火～木	企業研究会(学内業界・企業研究会)
	13	水	第11回就職ガイダンス(キャリアデザインセミナー(3))
	16・17	土・日	大学入試センター試験
	20	水	第7回琵琶湖塾 講師:財部誠一氏(経済ジャーナリスト)

滋賀県立大学広報誌「県大jiman」は県大が持つキラリと光る「jiman」なところを紹介する広報誌です。

今回の特集は「つくる」をテーマにしました。

学内にとどまらず学外でも県大ではいろいろな「つくる」取り組みをしていることがわかっていただけたと思います。

「県大jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、今後もみなさんの協力をいただきたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

学生広報スタッフ大募集!

広報誌作成グループでは、県大jimanの作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」を紹介してみませんか。デザイン上の専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

From広報スタッフ

もう3年目...時の早さを感じます。(人間看護学部3年生 林 怜史)
 様々な分野の話聴くのは面白い!(環境科学部4年生 二瓶 莉苗)
 つくる喜びと責任を忘れず頑張ります。(人間文化学部3年生 寄川 弥生)
 色んな人の話が聞けて楽しいです。(人間文化学部2年生 澤田 奈緒)
 県大jiman初参戦!...もっと頑張ります!(人間文化学部1年生 堀江 知世)
 県大jimanも学生達が「つくって」ます。(工学部 河崎 澄)
 企画・編集するのは楽しいけれど締切が...(事務局 矢野 圭昭)

ありがとうございます!「県大jiman」!!
 いろんな発見がありました!
 文章力が...でも取材は面白い!
 初めての県大jiman楽しく参加できました!(人間文化学部2年生 中田 瑞季)
 初参加です。次こそガンバリます。(人間文化学部1年生 八木 風輝)
 県大jimanと掛けて、リレーのバトンと解く。(人間文化学部 佐々木 一泰)
 「つくる」大変さを実感しました。(事務局 田辺 善美)

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」 第5号

発行/滋賀県立大学広報委員会

編集/広報誌作成グループ

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

Tel. 0749-28-8200 Fax.0749-28-8470

URL : http://www.usp.ac.jp/

E-mail : webmaster@usp.ac.jp

発行日/2009年7月30日



無塩漂白白利用

環境ISO取得工場

ゴミゼロ工場

古紙リサイクル率70%再生紙を使用